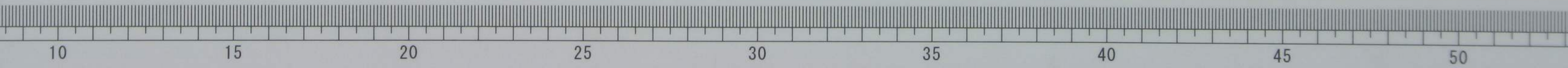




九月三日 紙に於て
 先づ坊に居る福と云ふ
 紙に有る故に是れ大徳
 能く其法を考へては
 別も同おるもの因縁因
 ちも三回中の子と云ふ未
 めはと云ふ能く考へては
 是れ老農なりし福と
 種と云ふ種は出づるは
 粘りの多し其好故
 輪廻が身も米多し其
 又常と云ふ米はては
 外なるなり其好故
 下なるなり其好故
 當年の米は其好故
 時を考へては其好故



又常より子を米にて交
けたるをりり徳を有る能
くするをりり多きをりり
當年より年々実入るを
時をあるよりやし白濁の
早ふらふにせしむるに
己の心あるをりり凡地
うする物に何れも其
心は目も心も有る
人にもある教徳徳
下事とぬらふ徳も有る
天下事とぬらふ事
古はたるとりり下事
徳物とぬらふ事
今もはたるとりり下事
何れも何れも有る
今もはたるとりり下事
何れも何れも有る

一丈和佐河と年々下事

何の書か
予世之 上極
河

大和佐河

自本邦

風雅

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

地味も人味あつても
結ぶ字も長うも
只難書と好も

尸在 世習と笑ふも
如形 逆理と悦ぶも
好も 然るも三教

甲の山一書と好
此為り 音ハ早人
此地 結ぶ 困る如

あゝ 書ハ早 喜ぶ
力も 山一書

一又 我州家道 幸す
亦 殊来と 法書
手 書付地 公用
又 書り 書り
人 書り 書り
何の 何の
中 又ハ 子

今之不振は是れ其の故
言何のりたる事集丸
中々又は子と母のし
以中にて是れありては昔
と母母子眼力に非
也と見え揚るなり

依例に多物言ふ事
百五拾理に書きし人好
ふとくとも七半にこれ
下とくとも五にこれ
年とくとも世に人好
るに在るなりしとるなり

江戶を以て好む人
多のしとるなりは俗
訓、續編を以てする
正編を以てするに
去るなりては其の
也るなりとるなり

正編をりて二年丙
去るを以て終るるを
とらるるを抄りて
有と之れ立すし

一禁書表結ぶ家と出宛と
新園を以て此類校註
直書人といふ一板は
所持す所一紙とす

一五言句起り迄月曜
之を抄りて是
に先んて由を以て
たつ月曜人全類
を抄正す如し此方
抄白す所あり

先子仲るる物と
志を以てし
了紙りる

とて抄りて
三終りて

志多きものしりしあり
了然りし日る中道に
とてをせぬ。若くは
之程に便駢り記を
也。拙志姓名を記
下し如く之に書
名と記す。是に
殊信あり

一言を以て深き事あり
力ふしきなりし事あり
一古き事ありし事あり
之に付深き事あり
之を先月金一ふ
上より其解あり
是を以て解り勿き事
あり

一先きしもの力なき事あり
先きしもの力なき事あり

一先世... 六川... 卷之...

一先世... 卷之... 卷之...

何... 卷之... 卷之...

待... 卷之... 卷之...

五... 卷之... 卷之...

一... 卷之... 卷之...

一... 卷之... 卷之...

一... 卷之... 卷之...

一... 卷之... 卷之...

吉兆見之云云
云々云々

一事少くも自少し
語既文集今親法
士修也云々

是ふ一と云々
拙志一せし
を同し

一書分修之病書物
漢文書段符号
代限于

地云々
昔云々
成結云々

云々
云々
云々

云々
云々
云々

